
スクールバトラー - 綾羽の陰謀 -

時田一哉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

スクールバトラー - 綾羽の陰謀 -

【Nコード】

N0497I

【作者名】

時田一哉

【あらすじ】

『突然だけど、キョウって女子に告白されたり、抱きつかれるたりするのって平気だと思う？』その一言で始まった話。またもや主人公片岡俊のスクールバトラー外伝。悪魔で外伝。作者が面白がって書いただけ。少しBL含む。

(前書き)

男が女装します。苦手な人は回れ右！

「突然だけど、キヨウって女子に告白されたり、抱きつかれるたりするのって平気だと思う?」

「と、あるお金持ちのお嬢様、久々津綾羽がそう呟いた。

「知らないよ。そんなこと」

「シューこと俺、片岡俊言った。」

「私にもわかりません。やってことありませんし、見たことないですし…」

「と、キヨウこと恭介の幼馴染の広瀬つぐみが言った。

「そうですね…僕もはつきり言って知りたいですね」

「と、成績優秀、スポーツ万能のなぞの転校生の如月誠が言った。

「…誰かがやってみてはどうですか…?」

「と、あだ名有希こと、綾羽のメイドでもある、無口無表情の真白静江が言った。

「誰って誰よ?」

「…綾羽さんがやってみたり…」

「嫌よ!有希ちゃんがやればいいじゃない!」

「…それちよつと…」

「わ、私もやらないです!って言うより誰にも恭介にそんなことさせたくないです!」

「そうね…困ったわ…これを確かめるには誰かがやらないといけないんだけど…」

「お前らは勝手にやってる。つかなんで俺がこんな話に入ってるのかがわからねえんだよ」

「シュー」

「何?」

綾羽は不気味に笑った。

「あんた男子にしては背、低い方よね。声もそんなに低くないし、

「顔もきれいよね…」

「何？まさか俺にやらせるつもりじゃないよね？」

俺は逃げようとした。

「そのまさかよ！！」

パシッと綾羽は俺の腕をガッチリ掴んだ。

「くそ！」

腕力半端ねえ！

「可愛くしてあげるわ」

綾羽はそう言うつと携帯電話を出して、こう言った。

「すぐに最高の美容師を呼んで！」

そして間もなく美容師が来て、俺は餌食となった。

美容師によつてストリートロングヘヤーへと変わった。

「さすが最高の美容師ね…完璧だわ」

「エクステをつけているのかわからないですね…」

「…可愛いです」

「おい…本当にやるのか…？」

「やるのよ。そしてこれから女子の制服着てきなさい。はい、これ

とこれ」

綾羽は制服とめがねを渡した。

「ちょ！？俺変態になっちゃうぞ！？」

「いいから着て来い！！」

俺ははトボトボと歩いていき、20分後、戻ってきた。

「ちよつとシユー！！可愛いじゃない！！なんか腹立つわ…」

「可愛いじゃないですか！！羨ましいですね…」

「…可愛いです」

俺はみごと可愛いどこにでも居る女子生徒へと変わった。

つてあああああ！？

「…俺は男だぞ…」

つと、俺の男泣き。

「でもいいわ！最高よ！つて言うことで行って来い！！」

「は!?!」

「ちゃんと女の子の言葉使いなさいよ?」

「なんで!?!俺は嫌だぞ!?!?」

「早く行って来いって言ってるでしょ!?!キョウは生徒会に居るか
らここに呼び出して告白よ!?!」

「嫌だ!?!!」

俺は涙を目に溜めながら言った。

「退学していいの...?」

綾羽は思いつきり黒い笑みをして言った。

みごと俺は負けた。

そしてやることを伝えられた。

HP 1500。

「くっそく...なんで俺がこんなことをっ...」

俺は生徒会室の前に居た。

「...なんで...なんで...」

すると、ドアが開いた。

ゴン!

「な!?!?」

当たって後ろに倒れた。

HP - 500。残り1000。

「...すまん。ってゆうより...お前誰だ?見たことないが...」

ちっ...くそっ...この男!?!いきなり卑怯だ!

お前のせいだっ...お前のせいで今の俺はっ...

そう、出てきたのはキヨウこと柊恭介だった。
憎たらしい…くそっ…

まあ、俺だつてばれてないみたいだが…な…

「そうですねか？一年だから見たことないんじゃないですか？」

「かもな。で？何でこんなところに居るんだ？」

「…ちよつと…いいですか…？」

「は？俺は忙しい」

こんのお…さつさとこんな終わらせてえこんなの脱ぎてえんだ
よ！

「裏庭に来てくれませんかっ！??」

「な、なんだよ？なんでそんなに怒ってるんだ？」

「いいから来てください！」

そして俺は裏庭につれてきた。

「はあ…なんだよこんなところに呼んで…」

「お…じゃない…私、柊先輩が好きです…！」

「…は？」

は？出たよ。は？が…

「だから、好きなんです！」

「…あつそ」

なんだこいつ…！

殺してえ…

「だ、だから、付き合ってください…」

「やだ。以上」

こ、こいつ…即答しやがってえ…

しかも、もう帰る気だ…！

俺は綾羽たちを見た。

綾羽は抱きつけ抱きつけ身振り手振りしてる。

…なんでこんな奴にっ…

くそ…！

どうにでもなりやがれってんだ…！！

「ま、待つてくださいー!!」

俺はもう目をつぶって抱きついた。

勢い余ってか、恭介は倒れた。

「何してんだよ?殺すぞ」

恭介はそう言っつて俺を投げ飛ばした。

殺してえのはこつちだこの野郎…

俺を女子と思っつてんなら投げんな…

つか女子を投げんのかこいつ!?

ひでえ…

つかほんとに生徒会長かこいつ…

つかもう疲れた…死にてえ…

HP - 600。残り400。

「うう…」

もう駄目だ…涙が止まらねえ…どうしてくれんだこの野郎…

「…何泣いてんだよ」

「泣いてない…」

「泣いてるだろ」

「泣いてないっ…」

「泣いてるだろ」

「てめえのせいだ…」

「そうかよ」

そう言っつて恭介は手を差し出した。

「……………?」

「いつまでそうやって地面に寝てるつもりなんだよ」

「え…」

そう言っつて恭介は俺を立たせてくれた。

「重…」

「殺すぞ」

「さっきまでの敬語はどこいったんだ片岡」

「!?!」

「眼鏡壊れてるぞ。お前なあ、なんの陰謀でこんなことしてんだ？」
「…綾羽だよ…綾羽にやれって言われたんだよ…」
「なんで？」

「…突然あいつ『突然だけど、キョウって女子に告白されたり、抱きつかれるたりするのって平気だと思う？』」

とか言つてさ…それからいろいろあつて…俺がやるってことになつたんだよ…」

「そりゃあ可哀想にな」

「お前全然可哀想に思つてねえだろ？」

「でも可愛いんじゃないか？」

なっ!？」

「お前なあ!!俺久しぶりに泣いちまつたんだぞ!?!どうしてくれんだよ!」

「どうしてくれんだよって…じゃあ…デートでもするか？」

「!?!」

こいつっ…

「お前その格好。どのくらい掛かった?結構掛かったと思うが」

「…すごい掛かった」

「告白だけでその格好終わらせんの持ったいねえんじゃないか？」

………

「つてことで行くかデート」

恭介はそう言つて笑つた。

ドキドキ…

つてなんで俺こんなにドキドキしてんだ!?

「俺はそんな趣味ねえええ!!!!」

「俺もない。でもせっかくそんな格好で告白したんだろ。一日ぐらい付き合つてやってもいい」

恭介はそう言つて俺の手を繋いだ。

「っ!?!」

ドキドキドキドキ…

HP - 1000。残り - 600死亡。

…こいつ…俺を殺す気なのか？

「キヨウ!!! あんた…そんな趣味あつたの!!!???」

「やっぱりそこに居たか綾羽」

「キヨウあんたキモいわ…」

「俺はまったくそんな趣味なんかねえ」

「柊くん、あなたには…がっかりですよ」

「何にだ？」

「って言うよりシューはどうしちゃったわけ？ものすごい乙女な顔しちゃってさ…」

…やばい…俺…そっち系の趣味持ちちゃったのか？

どうなんだ…俺…本当にどうしちゃったんだ…？

ああ…恭介の奴…いや、綾羽殺す!!!

「綾羽お前のせいだ…お前のせいで…俺はっ!!!」

「シュー!?! あんたまさか!!!」

「壊れた!!!俺が壊れた!!!殺す!俺の人生狂わせやがって!!!」

俺は恭介を好きになっちゃったじゃないか!!!

*

終わり

(後書き)

俊が乙女になってしまったW

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0497i/>

スクールバトラー - 綾羽の陰謀 -

2010年10月8日15時06分発行